



# 給食たより

2020年1月8日  
調布市立 第三小学校  
校長 辻 久恵  
栄養士 竹田 茜

あけましておめでとう

1月が明け、新しい1年が始まるとともに、学校では1年のまとめとなる3学期が始まりました。勉強や運動に自分の力をしっかりと発揮していくためには、朝ごはんが重要です。朝の冷え込みが厳しく起きるのがつらい季節ですが、早寝早起きの規則正しい生活習慣を身につけ、朝ごはんを必ず食べてから登校するようにしましょう。



あさ朝ごはんを食べて...  
頭がすっきりして、体が温まり、元気が強くなり、集中できる。  
ほがほが、すっきり、すっきり。  
今年も安心・安全に気をつけて、おいしい給食作りに努めていきたいと思っております。引き続きよろしくお願ひ致します。

## 今月のこんだてより

15日...この日は、全国学校給食週間に先がけて、ソフトめんを出します。右の年表の通り、1960年代ごろから給食で食べられています。

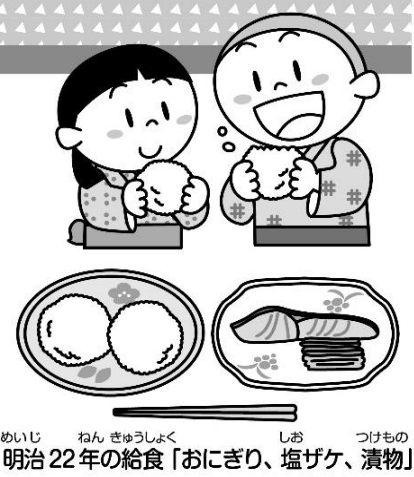
24日～30日...この期間は、全国学校給食週間は、昔なつかしの給食や郷土料理などを日替わりで出します。この期間を通して、家庭でも給食の話や食と健康に関する話をしてみてください。

30日...この日は、ロシアと中央アジアの料理です。昨年の夏に行った「伝えよう世界の食文化～給食で食べたい私が調べた世界の料理～」の応募の中から、「ボルシチ」を出します。

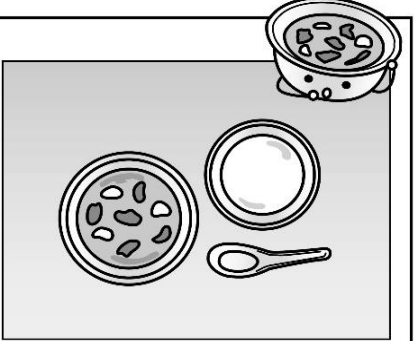
<お願ひ> 1月分の給食費の引き落とし日は6日(月)です。引き落とし予備日は、27日(月)です。よろしくお願ひ致します。

## 学校給食の歴史と献立の移り変わり

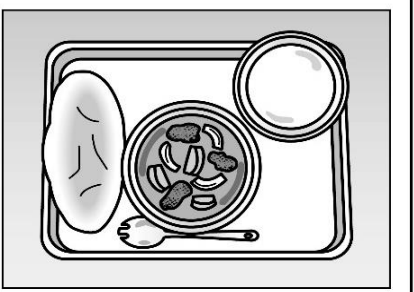
日本の学校給食の歴史は、明治22(1889)年に山形県にある小学校で、貧しい子どもたちへ昼食を無料で提供したのが始まりとされています。その後、各地で給食が実施されるようになりますが、戦争などの影響で中断されてしまいました。そして戦後、支援物資による給食再開を記念して設けられたのが、1月24日～30日の「全国学校給食週間」です。再開された給食が、どのような歴史をたどってきたのかを見てみましょう。



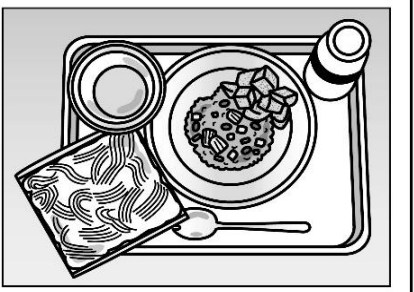
昭和22年(1947年) ●給食が再開される  
昭和21年12月24日、東京都内の小学校でアメリカのLARA(アジア救済公認団体)より給食用物資の贈呈式が行われ、昭和22年1月から全国約300万人の児童に対して、脱脂粉乳や缶詰などを用いた給食が始まりました。  
★当時の給食「ミルク、トマトシチュー」



昭和25年(1950年) ●パン・ミルク・おかずの「完全給食」に  
アメリカから寄贈された小麦粉を使い、パン・ミルク・おかずがそろった給食が実施されるようになりました。  
★当時の給食「コッペパン、ミルク、カレーシチュー」



昭和38年(1963年) ●ソフトめんが登場、脱脂粉乳から牛乳へ  
ソフトめんが学校給食に採用され、メニューの幅が広がっていきました。また、昭和39～43年にかけて、脱脂粉乳から牛乳へと切り替わりました。  
★当時の給食「ソフトめんミートソース、牛乳、フライポテト、桃缶」



昭和51年(1976年) ●米飯給食が正式に始まる  
パンが中心の給食から、少しずつ米飯給食が増えていきました。当初はご飯を炊くための設備が整わず、月に数回程度の実施でしたが、米飯給食は子どもたちに大好評でした。  
★当時の給食「カレーライス、牛乳、塩もみ、ゆで卵」

